

校友・会社紹介

池袋

東武食品サービス株式会社

代表取締役 關根哲男

せきね

(昭和51年政経学部卒)



今回は、東武食品サービス株式会社の關根哲男社長（昭和51年政経卒）を池袋の本社に尋ねました。

同社は昭和

53年東武百貨店から独立。豊島区の皆様にはお馴染みの池袋東武のビアガーデン他、ホテル・宴会場、レストランからファーストフードまで『あらゆる「食」のシーンをお客様のニーズに合わせてご提供』され、今年設立40周年を迎える地元優良企業です。

社長就任5年目の關根さんは、東武鉄道から東武スポーツ、東武計画（現東日本総合計画）と、様々な業種・幅広い業務でキャリアを積み上げてこら

れました。就職活動をされた昭和50年当時は、第一次オイルショック後の就職難だったそうで、銀行・デパートなど業種を特定せず30社ほどアタック。ご出身の志木市にも縁の深い東武鉄道に入社されました。鉄道が好きで鉄道会社に就職したという同期が多い中、關根さんはあえて鉄道以外の業務を志願。その希望が叶い、多くのグループ企業を舞台に活躍することになったそうです。



ゼミ08会での里見常吉先生（中央）と關根社長（左）

学生時代は、経済学原論の里見常吉先生（後に名誉教授）のゼミに所属。ただ在学中は二度のロックアウトの影響もあり、休講が多くあまり勉強には励めなかったそうです。一方でまつり研究会「カリフラワー」では、三社祭りで神輿をかついだり、旅行やコンパなど「いつもワイワイガヤガヤ」かな

りアクティブで賑やかなサークル活動をされたそうで、文化祭では古道具屋で道具をそろえたフランクフルト店で大きな利益を上げるなど、食品会社社長としての基礎が明治の学生生活で育まれたようです。

現職で最も力を入れて取り組んでおられるのは人材育成。「味の良い料理を提供するのはもちろん、提供する器の知識や芸術的センスなど人間力を磨かなければ料理が完成しない」とおっしゃいます。例えばNEXCO東日本新メニューコンテストでグランプリを受賞した、常磐道友部サービスエリアのメニュー「君への手紙」（二五〇〇円）では、美しい球体の漆器（時価三万円！）を使用するなどクオリティとオリジナリティで高い評価を獲得すると同時に、一流の料理人を育てることに注力されています。

お客様に最良のQ（高品質）S（満足いただけるサービス）C（清潔で雰囲気の良いみせづくり）を提供することをビジョンとして掲げる東武食品サービス様。メイジの人間力で益々発展されることを確信しました。

【取材】

- 副支部長 猪瀬典夫
- 島倉仁志 平成19年商学卒

明治大学校友会豊島区地域支部

池袋で暑気払い!!

日時:8月4日(土) 18:00~

場所:ホテル第一イン池袋 2階「ピノ」
東池袋1-42-8 (池袋東口徒歩2分)

☎03-3986-1221

会費:5,000円



明治大学校友会豊島区地域支部会報

豊島支部 NEWS

2018年 第58号

二〇一八年初春交流会開



2月10日(土) 18時から校友会豊島区地域支部の新年最初の恒例のビックイベント「初春交流会」が池袋駅西口の地球

飯店で開催されました。事前の出席お申込みでは80名様を優に超えており、

宴会場の広さの都合で席数の確保として80名様を限度でしたので、何とかやり繰りしてご着席頂こうと考えておりましたが、インフルエンザの流行の時期に当たり、当日数名のご欠席者がお出られて何とか全員ご着席頂くことができませんでした。

会のスタートは、昨年大好評でした江戸消防記念会第四区(池袋)十番組による江戸情緒溢れる木遣りが披露



されました。その余韻が残る中で白砂正人支部長から新年の挨拶が行われ、そして三浦昭生北部支部支部長の乾杯の音頭で「初春交流会」が始まりました。

司会進行

役は、長尾睦子副支部長により格調高く進められました。

なお、毎年ご参加頂いております高野



之夫豊島区長はご公務と重なり残念ながら欠席となりましたが、豊島区役所からは部課長級の校友が多数ご参加頂きました。各校友の方々は、区役所では見られない学生時代に戻ったようなご様子で和気あいあいと交流されておりました。

また、今回もイベントとして演奏等のパフォーマンスは一切行わず、地球飯店の十種類にも

およぶ特別コース料理に舌鼓を打ちながら、会話が大変盛り上がりつつありました。

特に、印象的でしたのが、若手の弁護士が4名、税理士、司法書士など専門職の方々に参加されており業種・業界を超えた横断的な交流が行われて閉会の予定時間を大幅に過ぎてしまいました。

最後は待ちに待った応援団OBの橋爪孝利常任幹事のリードで、参加者全員が肩を組み大きな輪を作って校歌の大合唱となり地球飯店の会場が紫紺一色となりました。

閉会の挨拶は、板橋光一幹事長が務め、そして再度、木遣りが歌われ兼村仁常任幹事のリードで三本締めとなり、新春に相応しい華やいだ雰囲気のまま「初春交流会」はお開きとなりました。

※文責 幹事長 板橋光一

(昭和47年法学部卒)



オープニングの木遣り♪

「ミレイ会通信」

豊島区地域支部では、毎年3回のイベントを開催し、校友の親睦を図っています。それは、2月の新春の会（地球飯店）、8月の暑気払い（第一イン池袋）、11月の総会（としま産業振興プラザ）で、校友が集い、盛大に催されています。

他方、年配の校友からは、懐かしい昔の仲間への会い、話をしたいので、懇親会開催の強い要望がありました。このため、概ね六〇歳以上のシニアを対象にミレイ会を発足し、主として、**イベントの無い月の第2火曜日**に懇親会を開催することにしました。



最近では、第3回は、1月9日にロサ会館2階の「さど」に11名が、第4回は、3月13日に同じく「さど」に12名が、第5回は、4月10日に巣鴨「たけやま」に9名が集

いました。いずれの懇親会も先輩方の昭和の懐かしい話で盛り上がりました。ざっくばらんな雰囲気での懇親会です。次回、6月12日に開催予定

なお、今回は、6月12日に開催予定

※報告&担当幹事

後藤孝男（昭和46年商学部卒）

**御嶽神社七夕祭に、明大マンドリン倶楽部メモリアルオーケストラ
ご出演予定**



池袋御

嶽神社の七夕祭に、今年もマンドリン倶楽部OB会メモリアルオーケストラにご参



加頂くことを企画しております。7月7日（土）の夕方、マンドリン演奏のほか

に子供縁日を予定しております。暑い時期の夕涼みにマンドリンの心地よい音色を、ぜひご鑑賞ください。

（中西大輔 平成11年文学部卒）

社会貢献活動への参加



豊島区地域支部は、NPO法人としてまNPO推進協議会（代表理事・柳田好史副幹事長）などとの連携・協働し、社会貢献活動に取り組んでいます。

平成30年2月3日に開催された『社会貢献活動見本市』では、優秀パネル展示団体として、「としま案内人駒込巢鴨」へ明治大学校友会豊島区地域支部賞（金一万円）を贈呈しました。

また、平成30年5月13日の『第121回えんがわ市』のフリーマーケットに出展し（下の写真）しました。なお売上金は、大規模災害被災地へ

寄付する予定です。今回は、お隣、板橋区地域支部の橋田隆副支部長からも多数の出品をいただくなど、社会貢献活動の輪が広がっております。

さらに、三浦昭生シニアフェローを中心に、使用済み切手・書き損じハガキを取集し、社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会へ寄贈して

います。豊島区地域支部では、地域団体として今後も社会貢献活動に積極的に取り組んでいきます。

報告 副支部長 猪瀬典夫（昭和59年大学院工学研究科建築学修了）



明治魂を伝える

弁護士 薬師寺 正典

平成二十一年 法学部卒

弁護士法人 第一法律事務所所属

もともと司法試験を目指して法学部に入學した私ですが、クラスメイトの勧めで参加したラクロス部の練習会がとても楽しく、結果的に大学生活の大半をラクロスに捧げることとな



※明大ラクロス部。1988年創部。現在は体育会にも加盟し、約100人の部員が学生日本一を目指して練習に励んでいる。

りました。

ラクロスとは「クロスと

と呼ばれる金属製の棒の先に網が付いたスティックに硬いゴム製のボールを入れて運び、相手の

ゴールを狙う団体競技です。男子ラクロスは、ヘルメットやショルダーパットなどの防具をつけ、タックルや「クロス」で相手を叩いてボールを奪ったり、時には時速160キロを超えるシュートで相手のゴールを襲うという激しいスポーツで、「地上最速の格闘球技」とさえいわれています。

大学生活では、平日は朝5時台の電車で練習に向かい、土日も含めほぼ毎日ラクロスをして過ごしました。今考えばよくこんな生活を4年間も続けたものだと思いますが、ラクロスとともに過ごした4年間は私にとって素晴らしい財産となりました。

さて、大学4回生の秋に部活動を引退してからは、遅ればせながら司法試験に向け、地元である神奈川県伊勢原市の自習室で日々勉強に励みました。幸いにも、1年間の浪人生活を経て法



科大学院に合格し、その後司法試験にも合格することができました。

司法試験合格後は、明治大学出身の大先輩である、石寄信憲弁護士の

もとで弁護士としての執務を開始し、使用者側の労働法務分野に特化したブティック系事務所において数多くの労働事件に携わらせていただきました。

労働事件といえますと、未払残業代やハラスメントといったイメージが強いかもしれませんが、使用者側の人事労務管理においては、グループ会社も含めた企業内の広範な労務問題に対応することになります。労務分野はどちらかというと泥臭く、ときには団体交渉で労働組合と言いかいをすることもありませんが、そこでは、「良質な労働力を維持し、健全な経営を守る」という基本理念のもと、会社様とともに真摯に問題に対処していく姿勢が大事だと考えています。

このような形で多くの労働事件に携わる機会をいただいたものの、弁護

士として実務経験を積んでいく中で、弁護士を志した当初に抱いていた「専門分野を持ちつつも依頼者様の多様な問題についてともに悩み、解決の手助けをしていける弁護士になりたい」という気持ちが強くなり、色々と悩んだ結果、昨年の8月に事務所を移籍させていただくことになりました。

現在は弁護士法人第一法律事務所 に所属し、有楽町電気ビルで執務を行っています。以前と同様に使用者側の労働法務分野を専門としつつも、会社法を含めた一般企業法務分野や遺産相続等の一般民事事件、刑事事件にも携わっており、以前に比べると随分幅広くに執務を行っているなど感じています。ちなみに、現事務所には、同じく明治大学出身の大先輩である、山崎武徳弁護士が在籍されており、ここでも明治大学との不思議なご縁を感じています。

以上、明治大学入学から現在に至るまで、まとまりのない話となつてしまいましたが、最後に、最近様々なコミュニティの方々とお会いする中で、明治大学出身の諸先輩方が口をそろえて、「明治大学を卒業して良かった」と仰っているのを拝見し、私自身も、「やっぱり明治がナンバーワン」だと実感している次第です。